

# 福井県の治安情勢 [5月末現在]

(令和3年5月末数値は暫定のものを含む。)



令和3年4月2日 白バイ出動式



— 福井県警察 —

## 1 刑法犯

### (1) 刑法犯の認知・検挙状況

認知件数は956件で、前年同期に比べて187件(16.4%)減少

検挙件数は646件で、前年同期に比べて69件(9.7%)減少

検挙率は67.6%で、前年同期に比べて5.0ポイント上昇

		H30	R1	R2	R3.5末
福井	認知件数(件)	3,197	3,132	2,764	956(-187)
	検挙件数(件)	1,786	2,023	1,960	646(-69)
	検挙人員(人)	1,117	1,291	1,263	427(-80)
	検挙率(%)	55.9	64.6	70.9	67.6(+5.0p)
全国	認知件数(件)	817,338	748,559	614,231	227,287(-27,570)
	検挙件数(件)	309,409	294,206	279,185	105,049(-3,480)
	検挙人員(人)	206,094	192,607	182,582	69,058(-2,062)
	検挙率(%)	37.9	39.3	45.5	46.2(+3.6p)

※1 表中の( )内の数字は、前年同期比(以下同じ。)

※2 検挙率とは、当該年の認知件数に対する検挙件数(当該年の前年以前の認知事件の検挙を含む。)の割合

### (2) 重要犯罪の認知・検挙件数

認知件数は23件で、前年同期に比べて9件(64.3%)増加

検挙件数は23件で、前年同期に比べて10件(76.9%)増加

【認知件数】

(単位:件)

【検挙件数】

(単位:件)

	H30	R1	R2	R3.5末
殺人	7	9	1	0(±0)
強盗	7	1	3	0(-1)
放火	4	3	1	1(+1)
強制性交等	7	2	8	8(+5)
略取・誘拐	2	0	1	2(+1)
強制わいせつ	12	11	22	12(+3)
合計	39	26	36	23(+9)

	H30	R1	R2	R3.5末
殺人	7	8	1	0(±0)
強盗	7	1	3	0(-1)
放火	4	3	1	1(+1)
強制性交等	7	2	8	8(+6)
略取・誘拐	2	0	1	2(+1)
強制わいせつ	12	11	22	12(+3)
合計	39	25	36	23(+10)

### (3) 防止重点8罪種の認知件数

認知件数は503件で、前年同期に比べて143件(22.1%)減少

(単位:件)

	H30	R1	R2	R3.5末
車上ねらい	277	147	189	24(-88)
自転車盗	487	477	307	101(-1)
万引き	516	516	543	176(-31)
置引き	205	217	143	54(-9)
器物損壊	335	261	238	88(-16)
空き巣	63	79	60	18(-2)
忍込み	38	58	46	17(+9)
住居侵入	45	62	72	25(-5)
合計	1,966	1,817	1,598	503(-143)

## 2 子供を犯罪から守る対策

### (1) 児童虐待事案の認知・対応状況

#### ア 認知対応件数等

認知対応件数は219件で、前年同期に比べて47件(27.3%)増加

児童通告人員は270人で、前年同期に比べて44人(19.5%)増加

検挙件数は15件で、前年同期に比べて4件(21.1%)減少

		H30	R1	R2	R3.5末
認知対応件数		193	372	555	219(+47)
児童通告	人員数	238	418	678	270(+44)
	身体的	29	46	73	15(-6)
	性的	0	0	4	0(-2)
	ネグレクト	33	28	31	9(+2)
	心理的	176	344	570	246(+50)
	うち面前DV	159	295	436	169(-14)
検挙件数		16	47	59	15(-4)

#### イ 主な施策

- 児童相談所との24時間体制による情報共有など、関係機関と連携した対応
- 児童虐待事案における児童の迅速な安全確保と児童相談所への積極的な通告

## (2) 子供に対する声掛け事案等

### ア 相談等件数

相談等件数は 88 件で、前年同期に比べて 36 件 (69.2%) 増加

(単位：件)

	H30	R1	R2	R3.5 末
小学生以下	95	114	91	42(+23)
中学生	47	49	56	22(+8)
高校生	89	81	64	23(+8)
その他	4	4	8	1(-3)
合計	235	248	219	88(+36)

※ 声掛け事案等とは、性犯罪等の前兆とみられる声掛け、つきまとい等をいう。

### イ 先制・予防的活動

検挙、指導・警告件数は 46 件で、前年同期に比べて 22 件 (91.7%) 増加

(単位：件)

	H30	R1	R2	R3.5 末
検挙	24	40	27	15(+8)
指導・警告	68	72	69	31(+14)
合計	92	112	96	46(+22)

### ウ 主な施策

- 声掛け事案等の発生状況、特徴等を公表し、事業者や地域住民等に対して不審者情報等の提供や「ながら見守り」活動への協力を要請
- 通学路等における警戒・パトロールの強化、防犯ボランティアと連携した見守り活動、被害防止啓発活動の推進
- 声掛け事案等の行為者を早期に特定し、検挙、指導・警告等の先制・予防的活動を推進
- リュウピーネットやGIS (安全・安心マップ) によるタイムリーな不審者情報の発信



事業者に対する  
「ながら見守り」への協力要請



防犯ボランティアと連携した  
見守り活動

### 3 非行少年を生まない社会づくり

#### (1) 非行少年の推移

検挙・補導した非行少年は35人で、前年同期に比べて30人(46.2%)減少

(単位：人)

	H30	R1	R2	R3.5末
犯罪少年	87	103	101	31(-12)
触法少年	22	23	35	4(-17)
く犯少年	0	4	2	0(-1)
非行少年総数	109	130	138	35(-30)

#### (2) 主な施策

ア 小・中・高校生に対する非行防止教室の開催

イ 量販店の新規開店や、コンサートの開催等に合わせ、少年がい集しやすい場所における街頭補導活動等の実施

ウ 少年や保護者等の悩みや困りごとについて、少年警察補導員が電話等で相談に対応



非行防止教室の開催



相談窓口の周知

### 4 女性を犯罪から守る対策

#### (1) 女性が被害者となる犯罪の認知・検挙件数

認知件数は91件で、前年同期に比べて10件(9.9%)減少

検挙件数は95件で、前年同期と同数

(単位：件)

	H30		R1		R2		R3.5末	
	認知	検挙	認知	検挙	認知	検挙	認知	検挙
強制性交等	7	7	2	2	7	7	8(+5)	8(+6)
強制わいせつ	12	12	11	11	18	18	12(+3)	12(+3)
略取誘拐・人身売買	2	2	0	0	1	1	2(+1)	2(+1)
暴行	103	97	161	155	155	155	54(-12)	55(-7)
傷害	36	35	64	65	60	54	15(-7)	18(-3)
合計	160	153	238	233	241	235	91(-10)	95(±0)

(2) ストーカー事案の相談等・検挙状況

相談等件数は65件で、前年同期に比べて1件(1.6%)増加

検挙件数は12件で、前年同期に比べて3件(33.3%)増加 (単位:件)

	H30	R1	R2	R3.5末
相談等	74	121	157	65(+1)
検挙	8	23	41	12(+3)
禁止命令・警告	27	49	64	25(+4)

(3) DV事案の相談等・検挙状況

相談等件数は108件で、前年同期に比べて7件(6.1%)減少

検挙件数は47件で、前年同期に比べて25件(34.7%)減少 (単位:件)

	H30	R1	R2	R3.5末
相談等	187	237	269	108(-7)
検挙	99	144	142	47(-25)
保護命令	9	7	14	6(+1)
警告	70	70	70	43(+7)

(4) 主な施策

ア ストーカー・DV事案に対する被害者の迅速な安全確保と行為者に対する指導・警告、  
検挙措置の徹底

イ 精神科医やカウンセラーと連携し、ストーカー行為に対して、治療に関する助言を行う  
など、行為者の更生を支援

※ R3.5末: 4事案について4回実施

## 5 高齢者を犯罪から守る対策（特殊詐欺対策）

### (1) 特殊詐欺の認知件数及び被害額（※ 被害額の千円未満は四捨五入）

- ・ 特殊詐欺の認知件数は11件で、前年同期に比べて2件（15.4%）減少
- ・ 被害金額は約2,277万5千円で、前年同期に比べて約1,011万2千円（79.9%）増加

#### 【被害の特徴】

- ① 手口別では、還付金詐欺の割合が多い（6件、54.5%）
- ② 被害者はすべて65歳以上の高齢者（11件、100.0%）
- ③ 交付形態別では、「振込型」6件、「キャッシュカード手交型」3件、「現金手交型」1件、「キャッシュカード窃取型」1件

	H30		R1		R2		R3.5末	
	認知 (件)	被害額 (千円)	認知 (件)	被害額 (千円)	認知 (件)	被害額 (千円)	認知 (件)	被害額 (千円)
オレオレ	6	6,612	3	530	0	0	0(±0)	0(±0)
預貯金	—	—	—	—	7	8,201	3(-2)	5,576(-893)
架空料金請求	22	103,732	12	92,332	7	33,100	1(-3)	13,400(+11,100)
融資保証金	2	2,154	3	6,000	1	350	0(-1)	0(-350)
還付金	0	0	2	955	0	0	6(+6)	0(+3,379)
金融商品	0	0	0	0	0	0	0(±0)	0(±0)
ギャンブル	0	0	0	0	0	0	0(±0)	0(±0)
交際あっせん	1	505	0	0	1	10,560	0(±0)	0(±0)
その他	0	0	0	0	0	0	0(±0)	0(±0)
キャッシュカード詐欺盗	1	4,292	6	14,855	3	3,544	1(-2)	420(-3,124)
合計	32	117,295	26	114,675	19	55,755	11(-2)	22,775(+10,112)

※ 預貯金詐欺とは、親族や警察官、銀行協会職員等を装い、口座が犯罪に利用されているなどと騙って、交換手続き名目でキャッシュカード、クレジットカード、預貯金通帳等をだまし取るもの。従来、オレオレ詐欺として計上していたもののうち、キャッシュカード、クレジットカード、預貯金通帳等をだまし取るものについては、令和2年1月から預貯金詐欺の分類で計上

※ キャッシュカード詐欺盗とは、オレオレ詐欺等の手口で被害者に接触し、被害者の隙を見てキャッシュカード等を窃取する窃盗をいう。平成30年から計上

(2) 検挙状況（助長犯罪\*を含む。）（H30以降キャッシュカード詐欺盗を含む。）

検挙人員は11人で、前年同期に比べて4人（26.7%）減少

	H30	R1	R2	R3.5末
検挙件数（件）	39	50	39	9（-9）
検挙人員（人）	36	39	31	11（-4）

※ 助長犯罪とは、売却目的で携帯電話や預貯金口座を不正に取得するなど、特殊詐欺を助長する犯罪をいう。

(3) 主な施策

特殊詐欺緊急対策プロジェクトチーム（H29.11発足）による被害防止と検挙を両輪とした対策を推進

ア 被害防止対策

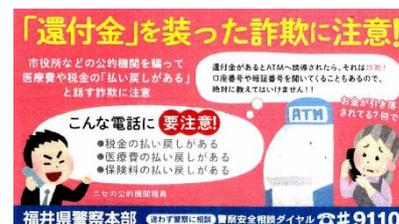
- 予兆電話認知時等におけるリュウピーネットやツイッター、Yahoo!防災速報等による県民へのタイムリーな情報発信
- オートコールシステムによる金融機関、タクシー事業者に対する速やかな情報配信
- 押収名簿登載者を重点とした制服警察官による高齢者宅への巡回連絡や、高齢者が集まる場所での分かりやすい出前講座による直接指導
- 官民一体となった被害防止対策に向けた会議の開催
- 安全・安心サポーターと連携した広報啓発活動



福井県特殊詐欺撲滅ネットワーク会議



安全・安心サポーター「山口茜」選手出演の啓発動画（R3.4～）



情報誌を活用した広報啓発

イ 検挙対策

- 県内に流入する受取役被疑者の徹底検挙
- 他の都道府県警察との連携による犯行グループの壊滅に向けた取締り
  - ・ フィリピンを拠点とする特殊詐欺の犯行グループの逮捕（R2.1～）
  - ・ 警察官等を騙る預貯金詐欺事件（R2.8～）
  - ・ 有料サイト利用料金名目の架空請求詐欺（R2.12～）
- 携帯電話や預貯金口座の不正取得など、特殊詐欺を助長する犯罪の取締りと犯行ツールの無力化対策の推進

## 6 暴力団等組織犯罪対策

### (1) 暴力団対策

#### ア 検挙状況

検挙人員は14人、前年同期に比べて10人(41.7%)減少 (単位:人)

	H30	R1	R2	R3.5末
刑法犯	76	63	46	8(-11)
特別法犯	36	45	26	6(+1)
合計	112	108	72	14(-10)

#### イ 山口組分裂に伴う諸対策

- 「六代目山口組・神戸山口組対立抗争集中取締本部」を継続し、暴力団犯罪の取締りと暴力団関係箇所の警戒活動を徹底 (H29.4~)

#### ウ 取締り

- 六代目山口組系傘下組織組員らによる詐欺事件 (R3.2)
- 六代目山口組系傘下組織組員らによる風俗営業等の規制及び業務の適正化等に関する法律違反事件 (R3.3)

#### エ 暴力団排除活動の取組

- 県内の事業活動等における暴力団等からの不当な要求行為等を防止するための支援の実施など、暴力団等の資金源を封圧するための諸対策を推進
- 県暴力追放センターをはじめとする関係機関との連携を一層強化し、より効果的な暴力団排除活動を戦略的に推進



暴力追放センター理事会

### (2) 薬物犯罪対策

検挙人員は19人、前年同期に比べて3人(18.8%)増加 (単位:人)

	H30	R1	R2	R3.5末
覚醒剤	37	46	40	11(±0)
大麻	13	17	22	7(+2)
その他	0	1	1	1(+1)
合計	50	64	63	19(+3)

## 7 交通事故から県民を守る対策

### (1) 交通事故の発生状況

交通事故死者数は7人で、前年同期に比べて2人(22.2%)減少

死者のうち5人は歩行中の事故であり、前年同期と同数であるが、全死者数に占める割合は約7割(71.4%)で前年同期に比べて15.8ポイント上昇

#### 【交通事故発生状況】

	H30	R1	R2	R3.5末
総事故件数(件)	25,540	21,990	18,804	8,311(+1,058)
人身事故件数(件)	1,398	1,168	868	356(-10)
死者数(人)	41	31	41	7(-2)
傷者数(人)	1,589	1,333	940	401(±0)
重傷者数(人)	260	234	161	76(+18)
物損事故件数(件)	24,142	20,822	17,936	7,955(+1,068)

※ 全国の交通事故死者数(R3.5末)は996人で、前年同期に比べて159人減少

#### 【年齢層別・状態別死者数】

(単位：人)

	自動車乗車中	自動二輪車乗車中	自転車乗車中	歩行中	その他	合計
29歳以下	0	0	0	1	0	1(±0)
30歳代	0	0	0	0	0	0(±0)
40歳代	1	0	0	0	0	1(+1)
50歳代	0	0	0	0	0	0(-1)
60～64歳	0	0	0	0	0	0(±0)
65歳以上	0	0	0	4	1	5(-2)
75歳未満	0	0	0	2	0	2(±0)
75歳以上	0	0	0	2	1	3(-2)
合計	1	0	0	5	1	7(-2)

## (2) 交通事故から高齢者を守る対策

### ア 高齢者（65歳以上）が犠牲となる交通死亡事故

高齢者の死者数は5人で、全死者数の約7割（71.4%）

	H30	R1	R2	R3.5末
全死者数（人）	41	31	41	7（ -2）
高齢死者数（人）	28	18	31	5（ -2）
構成率（%）	68.3	58.1	75.6	71.4（ -6.4p）

### イ 高齢交通弱者が犠牲となる交通死亡事故

高齢交通弱者（歩行者・自転車乗用中）の死者数は4人で、前年同期に比べて2人（33.3%）

減少

死者の4人はいずれも夜間歩行中であり、うち3人は反射材非着用

（単位：人）

	H30	R1	R2	R3.5末
高齢交通弱者の死者数	15	12	19	4（ -2）
歩行中	10	8	14	4（ -1）
自転車乗用中	5	4	5	0（ -1）

### ウ 主な施策

- 高齢交通弱者に対する参加・体験・実践型の交通安全教室
- 反射材マスクの配布による反射材用品の普及促進活動
- 高齢交通弱者に対する反射材タスキの貸与等の保護誘導活動



歩行環境シミュレーター  
を活用した交通安全教室



反射材マスクの配布による  
反射材用品の普及促進活動

### (3) 高齢運転者対策

#### ア 高齢運転者が第1当事者となる交通死亡事故※

全ての交通死亡事故のうち、高齢運転者が第1当事者となる死亡事故は1件で、前年同期に比べて2件(66.7%)減少

(単位：件)

	H30	R1	R2	R3.5 末
交通死亡事故件数	39	31	38	7( -2)
高齢運転者が第1当	15	8	14	1( -2)

※ 高齢運転者が運転免許を必要とする車両を運転して第1当事者となった交通死亡事故

#### イ 年齢層別・当事者別死亡事故件数（第一当事者）

(単位：件)

	自動車等				自転車	歩行者	その他	合計
	自動車	自動二輪車	原付	計				
29歳以下	1	0	0	1	0	0	0	1( -1)
30歳代	1	0	0	1	0	0	0	1(±0)
40歳代	1	0	0	1	0	0	0	1(±0)
50歳代	2	0	0	2	0	0	0	2( +1)
60～64歳	1	0	0	1	0	0	0	1(±0)
65歳以上	1	0	0	1	0	0	0	1( -2)
75歳未満	0	0	0	0	0	0	0	0( -3)
75歳以上	1	0	0	1	0	0	0	1( +1)
合計	7	0	0	7	0	0	0	7( -2)

## ウ 主な施策

- ドライブレコーダーを活用した個別の交通安全指導
- 「安全運転サポート車」の普及に向けた乗車体験会の開催
- 過去に複数回事故歴を有する高齢者に対する訪問指導



ドライブレコーダーを活用した  
個別の交通安全指導



「安全運転サポート車」の  
乗車体験会

## (4) 悪質・危険運転者対策

### ア 飲酒運転対策

#### (7) 飲酒運転による人身事故（運転免許を必要とする車両によるもの）

飲酒運転による人身事故は6件で、前年同期に比べて3件（100.0%）増加  
死亡事故件数は1件で、前年同期と同数

	H30	R1	R2	R3.5 末
人身事故件数（件）	20	23	12	6（ +3）
死亡事故件数（件）	3	2	3	1（ ±0）
構成率（%）	15.0	8.7	25	16.7（-16.6p）

#### (i) 飲酒運転の取締り

飲酒運転の検挙件数は40件で、前年同期に比べて9件（18.4%）減少

	H30	R1	R2	R3.5 末
検挙件数（件）	229	223	156	40（ -9）

#### (ウ) 主な施策（飲酒運転根絶気運の醸成）

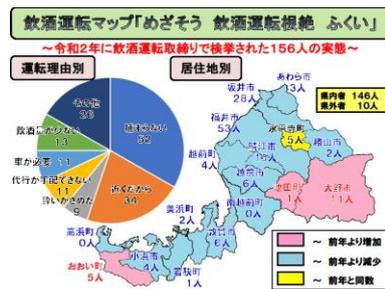
- ハンドルキーパー運動の広報啓発
- 小学児童等を「リュウピー・リュウミー交通保安官」に任命し、家庭や地域から飲酒運転根絶気運を醸成
- 県内居住地区別の飲酒運転取締り状況を表した「飲酒運転マップ」を県警ホームページに公表し、広報啓発活動や交通安全講習等で活用

イ いわゆる「あおり運転」対策

車間距離保持義務違反の検挙件数は28件で、前年同期に比べて2件（7.7%）増加  
 進路変更禁止違反の検挙件数は1件で、前年同期に比べて2件（66.7%）減少

（単位：件）

	H30	R1	R2	R3.5 末
車間距離保持義務違反	44	106	122	28( +2)
進路変更禁止違反	8	10	5	1( -2)



飲酒運転マップの公表



関係機関と連携した高速道路における「あおり運転」の取締り